



海でつながる5つのまちの 未来のためにできること。

環境と経済を両立し、皆が安心できる社会の実現をめざす——。国連が掲げる「持続可能な開発目標 (SDGs)」の考え方を身近に捉え、甲南大学の大学生と5自治体の高校生と一緒に地域の課題解決策を探る「関西湾岸SDGsチャレンジ」(主催:甲南大学、朝日新聞社メディアビジネス局、後援:神戸市、堺市、和歌山市、徳島市、岡山市)が今年で5年目を迎えます。時代の変化とともに新しい学びや探求の方法も取り入れ、さらに期待が高まるプロジェクトを紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



甲南大学 関西湾岸SDGsチャレンジ 5th Anniversary 今年も大学生と高校生が、地域の課題解決に挑戦します。

神戸・堺・和歌山・徳島・岡山 連携協定を生かす

甲南大学が結ぶ連携協定のもと、神戸市・堺市・和歌山市・徳島市・岡山市の地域課題をSDGsの視点から考える



地域課題を考える参加者たち

「関西湾岸SDGsチャレンジ」。大学生と地元高校生が1チームとなり、大学教員と朝日新聞記者が相談者(メンター)として付きながら学びを深め、自治体職員のサポートを得て、課題解決に取り組む実践的なプロジェクトだ。

2018年から始まり、コロナ禍においても調査方法を工夫しながら、学内外で協働作業し、持続可能な解決策を発表してきた。5年目となる今年は、大阪・関西万博にも参画。「関西湾岸SDGsチャレンジ」は、共創チャレンジに登録されており、成果がより注目されている。

オンライン活用で調査手法が進化 課題発見力をさらに伸ばす

昨年から高校、大学、自治体、朝日新聞社の4者で本格的に事前協議を行い、互いのニーズを踏まえ、学生たちの課題発見力を引き出すようなテーマ設定となるように工夫している。

「このプロジェクトは、SDGsを理解し解決策を考えるESD(持続可能な開発のための教育)の要素も強い取り組みですが、特に学びのプロセスを重視しています」という社会連携機構長・石川路子教授。グループワークやフィールドワークは基本的に対面で行う予定で、オンラインを効果的に組み合わせる。例えば、



オンラインを有効に活用する学生

現地調査の前後にオンラインでインタビューをすればポイントを絞った対面での調査ができ、課題をより掘り下げられる。また、大学生と高校生が離れていても頻りに意見交換できるメリットもある。



甲南大学は2016年、「海でつながる」をキーワードに神戸市、堺市、和歌山市、徳島市と「関西湾岸ネットワーク」を構築。19年から、地域連携の活動を展開しています。

コロナ禍を乗り越えチームで成長 新しい社会課題の発見に期待

SDGsチャレンジは5年目を迎えます。ここ2年はコロナ禍で対面での活動が制限されましたが、チームでうまく対応でき、これまでと遜色がない成果を出せました。一昨年に提案した、六甲山の放置竹林問題を解決するプロジェクトは、学生が外部団体と連携して活動を続けています。昨年に岡山市で行った地域活性化のイベントは、地元高校生が引き継いでおり、解決策の提案だけでなく、こうした継続性を高めていきたいです。



佐藤 泰弘 副学長

●さとう・やすひろ / 1993年3月京都大学大学院文学研究科 博士後期課程研究指導認定退学。2005年甲南大学文学部教授。専門は日本古代・中世の地方制度など。

近年の学生たちは自分のプライベート領域を確保することを大事にする傾向が見られます。また、オンラインでつながることは彼らにとって生まれた時から環境です。こうした世代が今の社会問題を見た時に、どのような課題を発見し、どう解決策を考えるのかとても興味深いです。2022年4月には、新たに社会連携機構(下段参照)を設立。SDGsチャレンジで取り組んだ課題感をもとに、ソーシャルビジネスにも挑戦する学生の誕生を期待しています。

写真提供: 岡山県観光連盟 徳島県・一般財団法人徳島県観光協会 一般財団法人徳島県観光局 公益社団法人堺観光コンベンション協会 公益社団法人和歌山県観光連盟

高校生と大学生のチームは バランスの良い組み合わせ

大学生と高校生が一つのチームになっているのは、SDGsチャレンジの大きな特徴だ。石川教授は「大学生は先輩としてチームをリードし、高校生は大学生から新たな視点を得ています。地域課題を考える組み合わせとして、大学生と高校生がチームを組むのは珍しいですが、とて



活発に意見を交わしながら互いに学び合う大学生と高校生

も良いバランスが取れています」と相乗効果が高いことを話す。

参加した大学生と高校生へのアンケートでは、地域社会に対する理解や地元のニーズへの気づきを得たなど、総じて高い評価を得ている。課題に対し自身が立てた仮説と現場の違いに気づいた大学生や、今後の進路選択に役立ったという高校生もいて、さまざまな効果が生まれている。



石川 路子

社会連携機構長・経済学部教授

7月からグループワーク開始 11月に解決策を広く発信へ

2022年にSDGsチャレンジに参加する大学生と高校生は、それぞれ20人を予定しており、7月9日(土)の朝日新聞社による事前講義からスタートする。7月17日(日)には「グループワーク」を行い、甲



昨年のチャレンジアカデミーの様子

南大学の大学生と各地の高校生が、地域課題を考察し解決に向けての仮説を立てる。8~9月(夏休み中)は「フィールドワーク」を実施し、チームで各地域取材する。11月3日(木・祝)の「SDGsチャレンジアカデミー」では、地域の課題を紹介し、その解決策を学生が発表して自治体から講評を受ける。各地域での研究成果は、大学のWebサイトや朝日新聞などで発信していく。

新しいリサーチ手法も取り入れながら進化するSDGsチャレンジは、学生たちの視野を広げ大きく成長させるはずだ。

関西湾岸SDGsチャレンジ 参加者の声

(「地域に根ざした学びに関するアンケート」から)

2 大学生

地域の方からの生の声を聞き、地元の方の考えとは初めての経験。自分たちの考えと地元の方の考えには違いがあったことなど、勉強になった。

2 高校生

政府やNPOがCMなどで人々にSDGsを教えるよりも、人々に自分でSDGsを考えさせる方がいいと思う。それができたのがこのプロジェクトだ。

地域社会の持続可能な発展に貢献する 社会連携機構が2022年4月に始動

地域連携センター リカレント教育センター

地域住民 自治体 企業 その他団体

甲南大学にある地域連携センター、リカレント教育センターの両センターを束ね、発展させていくことを目的に「社会連携機構」が始動。自治体・企業と大学の連携推進に一層取り組み、ソーシャルイノベーションを創出する拠点として実践的な人材育成プログラムを実施する。2022年9月には、地域社会のためのソーシャルビジネスの実現をめざす「ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム」が始まる。

甲南大学創立者の平生三郎が掲げる「共働互助」の精神はSDGsに通じることから、地域社会の持続可能な発展のために尽力できる人材を育成するのが狙い。「社会連携機構は、SDGsチャレンジの成果をソーシャルビジネスとして具体化する場にもなり得ます」と社会連携機構長・石川教授は新たな可能性を見据えている。

見つける、きみのなかの無限大。

甲南大学

OPEN CAMPUS

夏期 8/6 SAT・8/7 SUN

秋期 9/17 SAT

事前申込制

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、イベント内容の変更や中止、延期となる可能性があります。

3キャンパス同時開催

岡本キャンパス

阪急「岡本」駅 徒歩約10分、JR「摂津本山」駅 徒歩約12分
文学部 / 理工学部 / 経済学部 / 法学部 / 経営学部 / 知能情報学部

西宮キャンパス

阪急「西宮北口」駅 徒歩約3分
マネジメント創造学部

ポートアイランドキャンパス

「計算科学センター」駅 徒歩約4分
フロンティアサイエンス学部

岡本キャンパスまで

大阪梅田駅 (JR大阪駅) から 約30分
神戸三宮駅 (JR三ノ宮駅) から 約20分

申込方法 / イベント詳細

受験生向けWEBサイト『甲南Ch.』よりご確認ください



<https://ch.konan-u.ac.jp>

甲南Ch. Q

WEBオープンキャンパスサイト公開中!



お問い合わせ先 | アドミッションセンター
〒658-8501
兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL: 078-435-2319
Mail: ao@adm.konan-u.ac.jp